



1,000名近い従業員を抱え、東証上場も果たした勢いある企業。『PCA給与DXクラウド』×年末調整ステーションの連携サービスで、急成長に適應できる社内システム環境に

株式会社 一家ダイニングプロジェクト

「こだわりもん一家」「屋台屋 博多劇場」等の飲食店の運営、ブライダル事業「The Place of TOKYO」の運営をする株式会社一家ダイニングプロジェクト。1997年に「くいどころバー 一家(現:こだわりもん一家)」を本八幡にオープンして以来、店舗だけでなく、“おもてなし”に関わる様々な業態も増やし、さらにウェディング事業にも参入。会社の規模が飛躍的に拡大する中で、確実な会計・給与処理を行うために選ばれたのがPCAだ。1,000名を優に超える従業員を抱えた人気のフードビジネス企業において、何が課題となり、PCAでどのように解決できたのかを伺った。

導入システム

- PCA クラウド プリペイドプラン (Type12 7CAL)
 - ・ PCA 会計 クラウド
 - ・ PCA 給与 クラウド
- 年末調整ステーション ※1

導入の狙い

- ・スタンドアロン版運用で発生していたバックアップデータのやり取りによるデータの行き違いをなくし、複数拠点・会計事務所間でのデータ共有をスムーズにしたい。
- ・直営の飲食店が4業態56店舗※2に及ぶため、それぞれの店舗や事業の売上などを見ていきたい。
- ・複数店舗に総勢1,000名※2もいる従業員の年末調整業務を大きく効率化させたい。

※2): いずれも2019年3月末時点

導入効果

- ・『PCAクラウド』によって複数箇所や複数名、複数台のパソコンによる入力でも、リアルタイムのデータ共有をしながら最新情報での入力・閲覧ができる。
- ・『PCA会計DXクラウド』の部門別管理を利用することで、店舗別または事業別の集計を出しやすい。
- ・『PCA給与DXクラウド』と『年末調整ステーション』の連携サービスによって、年末調整申告書の物理的なやり取りを大幅に軽減。従業員はスマホやパソコンから入力でき、管理側は進捗状況の把握が可能。

プロフィール

株式会社 一家ダイニングプロジェクト

- 千葉本社: 〒272-0021 千葉県市川市八幡2-5-6
- 設立年月日: 1997年10月27日
- 従業員数: 248人/パート・アルバイト: 880名 (2019年3月末現在)
- 業務内容: 多業種飲食店の経営/ブライダル事業
- 店舗数: 東京・千葉・埼玉・神奈川 直営56店舗/婚礼施設1施設 (2019年3月末現在)
- URL: <https://www.ikkadining.co.jp/>



株式会社一家ダイニングプロジェクト

おもてなしの精神を届ける

私達のサービスの軸にあるものは“おもてなし”の心。全ての出会いを大切に、かけがえのない時間を過ごしていただく為。ただそれだけの為に。日本独自の素晴らしい価値観を飲食事業だけでなく、その他の業態や世界へ発信していく。『日本一のおもてなし集団』と呼ばれる存在を目指して、極めていく。それが私達、一家ダイニングプロジェクトです。

※1)『年末調整ステーション』は、株式会社エフアンドエムの提供するサービスです。



株式会社一家ダイニングプロジェクト
取締役 経営企画室長
岩田 明 氏



株式会社一家ダイニングプロジェクト
経理課長
中村 聡志 氏

導入前の運用と課題

○年々急成長していく事業。 その成長に適應できる会計 ・給与システムにしたい

『こだわりもん一家』『屋台屋 博多劇場』などの居酒屋を始め、東京タワーを一望できるおしゃれなダイニングレストラン『Terrace Dining TANGO』など、次々と人気の飲食店を出店している株式会社一家ダイニングプロジェクト。2012年からはブライダル事業も開始し、2017年12月には東証マザーズへの上場も果たした。日本一のおもてなし集団を目指し努力を続け、現在は飲食事業の直営店経営は4業態56店舗まで拡大した。

同社が初めてPCAソフトを導入したのは2003年に遡るが、それは、事業が飛躍的に拡大していくまさに直前だった。

「実はそれ以前は手書きで会計も給与も処理していました。仕訳も手書きで行い、給与計算も、税額を一覧表と見比べながら記入。税額などいっそのこと自動計算してくれるソフトの方がよいだらうと考え、会計士の先生とも相談して、まずは『PCA会計』『PCA給与』を導入しました。初めて操作したときは所得税などが自動計算され、なんて便利なんだろうと思いましたね。当時は直営店舗が5店舗ぐらいで従業員数は約50名。PCAソフトを利用しつつ事務員2名でなんとか対応できていました」(取締役 経営企画室長 岩田明氏)

その後同社は順調に店舗数も従業員も増やしていき、2012年にはブライダル事業『The Place of TOKYO』をオープン。創業地である千葉県市川市の千葉本社と、ブライダル事業を行う東京都港区の東京本社の2つのオフィスを抱えることになった。そこであらためて効率的で間違いのない会計・給与システムでの運用を検討することになった。

選定のポイント

○複数名・複数拠点からの入力 でも、データの行き違いが起 こらない環境に

同社が2つのオフィスを構えた時点で店舗も従業員もかなり増えており、すでに千葉本社内では複数名による入力が行われていた。その中で解決しなかったのが、データの行き違いを防ぐことだった。

「当時はローカルでデータ管理をしており、複数台のパソコンを使っているためデータをリカバリーする必要がありました。しかしオフィスが2カ所になりリカバリー作業に限界を感じました。また会計士の先生にもデータを送り修正してもらっていたのですが、そのデータを自分のパソコンで開く際にもリカバリーが必要でした。そんなことを繰り返しているうちに、どれが最新の正しいデータなのかわからなくなる事態が起こるようになり、それを解決できる方法を考えました」(岩田氏)

①千葉本社・東京本社・会計事務所の複数箇所からの入力や閲覧が可能であること。②複数名が入力しても、どれが最新データかを把握でき共有できること。それを実行できる環境として『PCAクラウド』が導入された。

導入後の効果

○1,000名分の給与計算処理 を3日間で実行できるクラウド での運用は、なくてはなら ないものに

同社は現在『PCA会計DXクラウド』『PCA給与DXクラウド』を千葉本社内と会計事務所で運用している。千葉本社内の管理部には14、15名が在籍しており、労務と経理・会計を担当。くわえて会計事務所側はデータの閲覧ができる環境にしている。

「『PCAクラウド』にしたことでデータの行き違いを防ぐという課題は解決できました。データ入力はほぼ同時にできています。当社は『PCA会計DXクラウド』『PCA給与DXクラウド』それぞれの同時接続台数を7台にしており、管理部と会計事務所を合わせてほぼ全員が同時に入力・閲覧できます。

クラウドは、導入時はスタンドアロン版に比べると割高な印象は否めませんでした。今となってはなくてはならないものとなっています」(岩田氏)

○『PCA会計DXクラウド』で部門別管理を実施。データも分析目的に合わせて加工しやすい

『PCA会計DXクラウド』は部門別管理の機能を充実させている。同社も店舗ごとあるいはフードビジネス、ウェディングの事業ごとの部門別管理を行う必要があるが、ソフト同士の連携については以下のように運用している。

『PCA給与DXクラウド』も以前のバージョンより、欲しい項目や情報を取り出しやすくなりましたよね。『PCA会計DXクラウド』も操作性が分かりやすくシンプルになり、以前より使いやすくなっています。必要な情報をEXCEL出力したり、右クリックからのコピー・貼り付け機能を使うことで、自社が使いやすい方法で連携できています。仕訳連携の方法もありますが、今自社にしっかりきている運用ができているのはこのような機能が搭載されているからだと思っています」(岩田氏)

ソフトを頻繁に活用している分、今後に期待する気持ちも大きい。「例えば、今の要望だと、部門別月次推移表にて補助科目も一緒に出せ

るように、とか、予算実績比較表の予算入力が1円単位で入力できるように、など選べる機能があればさらに便利だと思いますので、ぜひ搭載も前向きに検討くださればと思っております。」(経理課長 中村聡志氏)

○『PCA給与DXクラウド』と年末調整ステーションの連携で年末調整業務も大きく軽減

同社は現在給与計算の対象となる従業員数がアルバイトを含め1,000名近くに及んでいる。『PCA給与DXクラウド』は汎用データの柔軟な受け入れが特徴の一つだが、同社は勤怠データを『PCA給与DXクラウド』に受け入れさせることで、1,000名分の給与処理を3日間程度で実行できている。

また、多くの従業員を抱えている企業の場合、労務・給与処理の中でもっとも煩雑さを感じる仕事の一つが年末調整業務だ。

「当社の場合は店舗が各地に点在しており、店長に申告書の回収をお願いするわけですが、繁忙期と重なるため、書類の回収だけでも大きな負担でした。さらに2018年は改正によって、



株式会社一家ダイニングプロジェクト
総務 労務グループ
秋葉 未賀 氏

システム概況図



